

2024(令和6)年度

教育課程



豊後大野市小中一貫教育校緒方学園
緒方中学校

令和6年度 豊後大野市小中一貫教育校緒方学園 緒方中学校教育課程編成基本方針

1. 教育課程の基本方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法等、各種法令や大分県教育委員会、竹田教育事務所、豊後大野市教育委員会の示す教育方針を基本に、地域や学校、児童生徒の実態等を踏まえて教育課程を編成する。
- (2) 豊後大野市立小中一貫教育校緒方学園の中学校として、**緒方学園ランドデザイン**に基づき、小学校との連続性と段階性を意識した教育課程とする。
- (3) 本校の教育目標「自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成」を具現化するため、全教職員の共通理解の下、分担・協力して組織的に編成する。

2. 本校の課題

(1) 校区の様子

- ・町内は、原尻の滝・滞迫峡など、「おおいた豊後大野ジオパーク」の代表的な見どころがあり、ダイナミックな地球の流れを感じることができる自然豊かな土地である。
- ・古くは、緒方五千石と言われたほどの米どころであり、井路を巡らせ、豊かに広がる田園風景は、令和5年3月に「緒方川と緒方盆地の農村景観」として、国の重要文化的景観に選定されている。また、緒方三社川越し祭り、小松明火祭り、五千石祭り等の祭りの他、各地区の神楽や獅子舞、羽熊等は地域の努力により、子どもたちに伝承されている。
- ・かつては「教育のまち緒方」と言われていたほど、教育熱心な土地柄である。地域住民には、絵画や書道など文化的な活動に親しむ方も多い。潜在する教育資源を学校教育に生かせるような働きかけが望まれる。
- ・一方、少子高齢化は急速に進んでおり、地域の活力を維持する上でも、生徒に自信と誇りを持たせる上でも、「郷土学」を通して様々な地域の人々に学ばせ、郷土愛を育むことが求められている。

(2) 生徒の様子

- 集団生活における規範やその大切さを理解している生徒が多く、落ち着いた学校生活を送ることができている。
- 小学校高学年をコロナ禍の規制の多い中で過ごしたせい、自分の思いや願いを仲間に伝えようとしたり、より質の高いものを求めようとしたりする姿勢にやや弱さが見られる。一方で、機会や場が与えられればそれを発揮する力をもっている生徒は少なくない。
- 生徒間のいじめやトラブルはほとんど見られないが、小学校からの固定的な人間関係から解放されず、互いを傷つけないように、関係を壊さないように気を遣いながら過ごしている面が見られる。また、自尊感情が十分育っていない面がある。
- 学力は2極化の傾向がある。授業中は、多くの生徒が真面目に取り組み、学ぶ喜びを見ることができるとは、基礎的・基本的な知識・技能が十分でない生徒も少なくない。ユニバーサルデザインを念頭に、個別の指導計画を生かした指導の充実が必要とされる。
- 問題や課題に対して、論理的に考え、自分の考えが過不足なく伝わるように工夫し、豊かに表現する力に弱さがみられる。

3. 目指す生徒像

本校生徒の実態や地域の現状、願いを踏まえ、**緒方学園グランドデザイン**において、本学園が目指す生徒像は、次のとおりである。

- ◇ 将来の夢や目標に向かって、計画的に粘り強く取り組み、挑戦する生徒
 - ◇ 自他を尊重し、関わり合いの中で温かい人間関係を築くことができる生徒
- また、重点的に育成したい資質・能力は次のとおりである。
- ◇論理的な思考力と豊かな表現力
 - ◇共生力
 - ◇郷土愛

4. 中学校の教育目標

本学園の教育目標「未来に向かって生きる力を備えた緒方っ子の育成」及び本学園が目指す児童生徒像、育成したい資質・能力を踏まえ、中学校の教育目標を次のように定めた。

自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

5. 目指す教育課程

以上のことを踏まえ、別紙のとおり**緒方学園緒方中学校ランドデザイン**を作成し、教育課程を編成する。

(1) 重点目標

① 論理的な思考力と豊かな表現力の育成

② 自他を尊重する心の育成

○「目指す自分」に向けて粘り強く自律的に取り組む態度の育成

○自分や友人の良さや成長に気づき、協働によって課題解決を図る意欲と実践力の育成

(2) 重点目標達成に向けた重点的取組

① 授業改善・・・「新大分スタンダード」の視点を生かす

ア 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業づくり

昨年度に引き続き、論理的な思考力と豊かな表現力の育成、自尊感情の醸成、協働の価値の実感などを目的に生徒指導の3機能（自己決定の場・自己存在感を感じる場・共感的人間関係を感じる場の設定）を意識した問題解決的な展開の授業づくりを進める。

○具体的には、各教科で単元（題材）の「**学習カード**」を提示する取組を継続する。これにより、指導者には、単元（題材）を意識した授業構想力の伸長が期待できる。また、生徒には学習の見通しを持たせたり、学習の内容や進度を調整させたり、学習の成果を実感する振り返り活動をさせたりすることで、学びに向かう力の育成が期待できる。

○また、今年度は、**各教科の言語活動一覧表**を作成することを通して、問題解決的な学習の質の向上を図るとともに、本校が育成を目指す資質・能力（論理的思考力・豊かな表現力・共生力・郷土愛）と各教科等との関連も意識できるようにする。

○ICTの活用については、本校の生徒の多くは、中学校段階で求められるリテラシーを有しており、授業中も日常的に活用されている。今年度は、指導の留意点として「個別最適な学び」のためか「協働的な学び」のためかなど、目的を明確にすることを心がけたい。

イ 「書く」指導や計画的なドリル学習等による学びの基礎力を育てる指導

授業には前向きに真面目に参加していても、基盤となる知識・技能が十分身につけていないために困りを生じている生徒が少なくない。特に数学においては計算の途中を書くことの

指導や繰り返しの練習の時間を確保することが不可欠な状況となっている。タブレットの活用に重点が置かれる昨今ではあるが、低学力層の底上げを目的とした「書く」指導に重点を置く。

また、社会科や理科等では、知識を繋げて全体像を捉えさせる構造的なノートを作らせることで、論理的な思考力・表現力を育成したい。

ウ ユニバーサルデザインを念頭に個別の指導計画を生かす授業

ユニバーサルデザインを念頭に学習環境を整えていく。また、今年度は、生徒の特性を理解した学習支援を一層進める。視覚優位や聴覚優位などの基本情報を全教職員で共通理解して、指導に生かしていく。

② キャリア教育の充実

ア「郷土学」や人との出会いを通じた夢や憧れの醸成

緒方学園グランドデザインで、「郷土学」の段階性として提示している中期の「ふるさとの人に学び、発信する」、後期の「ふるさとや自己の未来を描き発信する」を踏まえ、総合的な学習の時間を中心に組織的・計画的な取組を進める。本校生徒は、「将来の目標がある」と答える生徒が少ない実態もあり、郷土学においても「人の生き方」に焦点を当てることを重視する。

イ 学級活動や生徒会活動、行事等における目標（めざす自分）設定と振り返り活動

昨年度からの取組を継続する。目標設定と振り返りにより、自己や友人、集団の成長を実感させるとともに、課題を発見させる。PDCAを意識して、粘り強く生活を評価・改善する力の育成に繋がるよう指導していく。

ウ 自律的な学習者を育てるための個に応じた学び方指導

緒方学園グランドデザインでは、中期の生徒指導の重点として「自律性の育成」を提示している。自律性は、生活の様々な場面で発揮されるように育成されなければならないが、中でも学習における自律性の育成は、望ましい家庭学習の習慣が身につけていない生徒が少なくない本校では、大きな課題である。

昨年度からの取組である、短学活を活用した家庭学習計画とその振り返りの活動を継続する。併せて、学期に1回実施する個人面談や、2学期に実施する三者面談では、キャリアカウンセリングの要素を加えながら、学び方についての指導助言を行う。

③ 「学びに向かう集団づくり」の推進

ア 生徒を繋ぐ合唱及びスマイルタイムの意図的・計画的な展開

本校は経営理念として、**楽しくて力の付く学校づくり**を掲げている。生徒それぞれが、悩みや不安をもちながらも、その中で「よりよく生きたい」「仲間と一緒に頑張りたい」「この集団の中なら自分らしさを発揮して伸びていける」と思える学習集団を生徒と教師が共に創造していく学校にしたい。

今年度から、その軸となる活動に「合唱」を据える。音楽科と生徒会本部が運営を担い、年間を通して合唱に取り組むことで、協働と創造の価値を実感させながら、自己有用感や共感的人間関係の育成につなげ、学びに向かう集団をつくっていく。

また、スマイルタイムにおける「人間関係づくりプログラム」の実施と、FUN・FUN スポーツについても、引き続き実施する。

イ 自主的・創造的な生徒会活動の展開

昨年度の「上履きをスリッパからシューズに移行する」取組に見られたように、学校生活や身近な社会生活の中から問題や課題を発見し、論理的に粘り強く解決を図ろうとする取組を進める。協働しながら課題解決に取り組むことや、多様な意見を尊重しながら折り合いを見つける経験は、互いの人権を尊重する態度の育成につながることも期待できる。

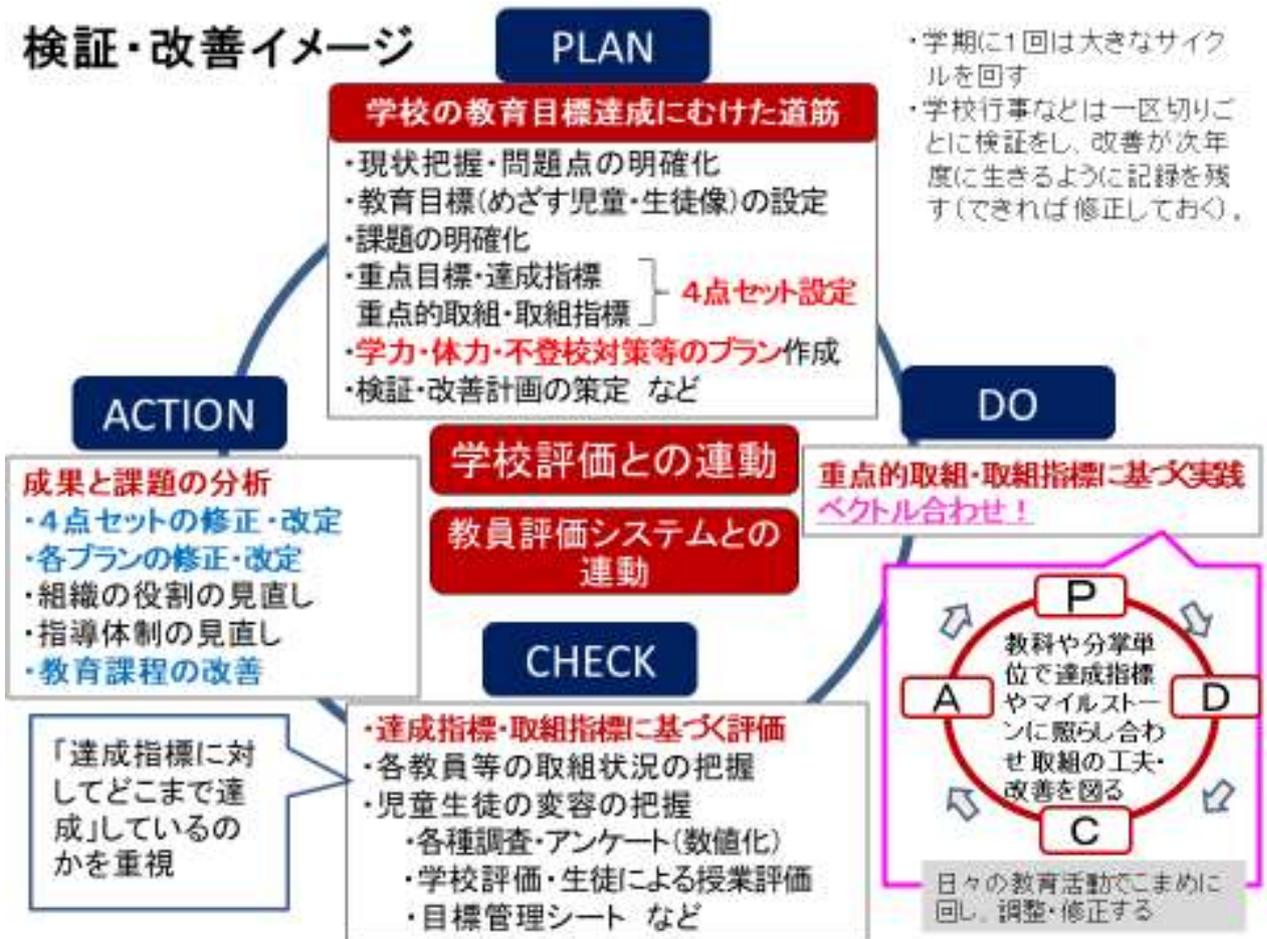
ウ 自分の問題として捉え・考える人権教育

令和6年度、本学園は豊後大野市人権・部落差別解消教育研究大会の発表校である。これを好機ととらえ、教科等の授業はもとより、学校行事や生徒会活動等、学校教育全体で人権教育を推進する。特に、人権問題を自分のこととして捉え、考える人権教育を、道徳の時間及び総合的な学習の時間を中心に進める。

以上のような重点的取組を実現するために、カリキュラム・マネジメントと教育相談活動、コミュニティ・スクールの充実を基盤に組織的・計画的な取組を進める。

6. 教育課程の評価・改善

学校経営グランドデザインと「学校評価の4点セット」、個々の教職員の「目標管理評価」の連動を図り、教育課程の評価・改善に繋げる。特に、学校行事や各教科の単元（題材）の学習後には指導の見直しを行い、修正して次年度に生かすことができるようにする。



7 定期テスト等について

(1) 定期テスト等は、以下のように実施する

- 1学期中間考査（1年生のみ実施）…テストの受け方、勉強の仕方を指導する。
- 1学期期末テスト（9教科）・2学期期末テスト（9教科）・学年末テスト
- 2学期期初めテスト（1・2年生）※3年生は中3学力診断テスト
- 各テストでは、「知識・技能」を問う問題、「思考力・判断力・表現力」を問う活用問題を峻別して設定する。概ね「7：3」～「8：2」の割合とする。

(2) 単元テストは、以下のように実施するト

- 国語・社会・数学・理科・英語の各教科は、単元テストを学習カードに位置付けて、必ず実施する。実施後は、全体で補充すべきこと、個別に対応するところ等を分析し、積み残しのないように指導を工夫する。

(3) 各種学力調査は、以下のように活用する

- 全国学力・学習状況調査及び大分県学力定着状況調査
 - ・実施後すぐに、テストの解説とやり直しをする。調査結果が返却される前に判明した課題については、早めに対策を立てる。
 - ・各教科担任は全体の傾向と対策を分析するとともに、指導の改善点を明らかにする。
 - ・全国調査の問題の展開を、教科の授業展開に活かす。
 - ・質問紙調査の結果を、学校生活や家庭生活、授業改善に活かすことができるよう丁寧に分析する。質問紙調査こそ、重視する。
- 豊後大野市学力テスト（対象：1，2年生 3学期初めに実施）
 - ・実施後、すぐにテストの解説とやり直しをする。調査結果が返却される前に判明した課題については、早めに対策を立てる。
 - ・春休みの宿題も含め、学年で習得させるべきことはその学年で習得できるよう指導を工夫する

8. 主な行事

- < 4月 > ○新任式・1学期始業式 ○入学式 ○緒方学園開校式
○全国学力学習状況調査 ○大分県学力定着状況調査 ○授業参観・学年懇談会
○家庭訪問 ○生徒総会 ○小中合同チューリップの球根掘り
- < 5月 > ○体育大会 ○1年生中間テスト ○避難訓練
- < 6月 > ○部活動選手壮行会 ○豊後大野市中学校総合体育大会（球技・陸上）
○小中合同 FUN・FUN スポーツ ○1学期末テスト
- < 7月 > ○1学期末 学年懇談会 ○3年生三者面談 ○ネットモラル学習
○1学期終業式 ○大分県中学校総合体育大会
- < 8月 > ○平和集会 ○2学期始業式 ○期初めテスト（中3学力診断テスト）
- < 9月 > ○避難訓練 ○1年集団宿泊訓練 ○2年職場体験学習
○豊後大野市中学校新人大会
- < 10月 > ○豊後大野市中学校駅伝大会 ○後期生徒会選挙
○豊後大野市人権・部落問題解消教育研究大会緒方大会
- < 11月 > ○文化祭 ○豊後大野市小・中合同学校音楽祭
○小中合同チューリップ球根植え ○2学期期末テスト ○2年修学旅行
- < 12月 > ○2学期末学年懇談会 ○三者面談（全校） ○2学期終業式
- < 1月 > ○百人一首大会 ○私立高校入試（推薦）
- < 2月 > ○私立高校入試（一般） ○公立高校推薦入試 ○学年末テスト ○お別れ集会
- < 3月 > ○卒業式 ○公立高校一般入試 ○生徒会選挙
○学年末懇談会 ○修了式 ○離任式



令和6年度 豊後大野市小中一貫教育校 緒方学園 緒方中学校学校経営 グランドデザイン

学園教育目標	「未来に向かって生きる力」を備えた緒方っ子の育成
校訓	自立・敬愛・創造
目指す生徒像	将来の夢や目標に向かって、計画的に粘り強く取り組み、挑戦する児童・生徒 自他を尊重し、関わりの中で温かい人間関係を築くことができる児童・生徒
重点的に育成したい資質・能力	論理的な思考力と豊かな表現力・共生力・郷土愛
中学校教育目標	自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

基本理念	
経営理念	楽しくて、力のつく学校
行動規範	○深い愛情と専門性に基づく実効性のある指導・支援で、信頼される学校、教職員 ■授業で勝負する ⇒生徒指導の3機能を生かした「楽しくて力のつく授業」づくり ■生徒の声を聴く ⇒生徒の自立につながる適切な支援と、成長の喜びを分かち合える教職員集団 ■凡事徹底 ⇒事務の適正な執行、専門性・公正性・透明性の確保 ⇒綱紀粛正と危機管理
日常の活動姿勢	○報告・連絡・相談・記録の徹底 ○同僚性の発揮と切磋琢磨 ○礼儀正しい温かい対応

